

P1-B-0092**人工股関節全置換術患者における早期退院後の仕事復帰**和田 治^{1,2)}, 飛山 義憲¹⁾, 川添 大樹¹⁾, 中北 智士¹⁾¹⁾あんしん病院, ²⁾広島国際大学医療福祉科学研究科医療工学専攻**key words** 人工股関節全置換術・早期退院・仕事復帰**【目的】**

近年、人工股関節全置換術（以下 THA）では早期社会復帰を目的に早期退院が進められている。早期退院による仕事復帰は、患者自身の経済的負担だけでなく、我が国全体の社会的損失の観点からも重要であるが、早期退院後の仕事復帰時期に関する報告は少なく、復帰時の状態に関しても明らかでない。本研究では THA 早期退院後の仕事復帰時期と復帰時の状態を仕事強度別に調査することを目的とした。

【方法】

対象は初回 THA 施行され、術後の仕事復帰を希望した患者 38 名（男性 6 名，女性 32 名，年齢 58.9 ± 7.5 歳）とした。調査項目は仕事内容と復帰の可否および復帰時期とした。復帰時の状態として、術後 1 か月と 3 か月に疼痛（VAS 0：全く痛みなし～100：最大の痛み）と Modified Harris Hip Score（HHS）を評価した。対象者を座り仕事中心（L 群）と立ち仕事中心（H 群）の 2 群に分け、復帰時期と股関節の状態を検討した。

【結果と考察】

対象者全員が仕事強度に関係なく術後 12 週までに仕事復帰可能であった。L 群（男性 4 名，女性 17 名，年齢 59.3 ± 7.7 歳）の復帰時期は術後 4.0 ± 2.4 週であり、術後 2 週以内での仕事復帰おは 8 名，術後 4 週以内での仕事復帰は 14 名であった。また術後 1 か月の疼痛は 13.7 ± 13.8 mm，HHS は 80.7 ± 7.7 点，術後 3 か月の疼痛は 6.1 ± 6.7 mm，HHS は 91.2 ± 7.4 点であった。この結果より、座り仕事であれば早期に仕事復帰可能であるが、復帰後も継続的なリハビリテーションが必要であると考えられる。一方、H 群（男性 2 名，女性 15 名，年齢 58.5 ± 7.3 歳）では復帰時期が術後 7.2 ± 5.6 週と L 群よりも遅延し、術後 4 週以内の仕事復帰は 5 名，術後 8 週以内の仕事復帰は 13 名であった。また術後 1 か月の疼痛は 11.4 ± 11.3 mm，HHS は 79.8 ± 7.4 点，術後 3 か月の疼痛は 3.1 ± 3.9 mm，HHS は 89.9 ± 8.3 点であった。したがって、立ち仕事の場合、復帰時にはより良い股関節の状態である必要が示唆され、仕事復帰には 2 か月程度かかることが明らかとなった。